

「キャリア・パスポート」の作成及び活用について（説明資料）

【「キャリア・パスポート」とは】

小・中・高等学校における特別活動の学級活動・ホームルーム活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」では、児童生徒が、学校、家庭及び地域社会において学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行います。その際、児童生徒が学びを記録し蓄積する教材が「キャリア・パスポート」です。

【「キャリア・パスポート」のねらい】

児童生徒にとっては、学びを記録し蓄積することで、自らの人生を切り拓いていくための力を身に付けることができます。人はこれまでの学びの過程を振り返ることを通して、自らの成長や変容を受け止め、主体的に学びに向かう力を育み、次の目標に向けて頑張ろうという意欲を高めます。

また、教師や保護者等、身近な人にとっては、児童生徒のこれまでの学びを知ることができ、対話的に関わったり、個に応じた指導・支援に役立てたりすることができます。

学校、家庭及び地域社会が一体となって奈良県の子どもたちを育てる横のつながりと、小・中・高等学校を通して奈良県の子どもたちを育てる縦のつながり、その両方を実現するためのツールとなるのが「キャリア・パスポート」です。

【何を記録し蓄積するのか】

- ① 日常の授業や学校生活及び学校行事等における学びを、各学校での「身に付けさせたい力」を視点として振り返りまとめたもの。
- ② 「将来の夢」や「今、夢中になっているもの」等、その時々について記録したもの。
- ③ 家庭や地域社会での学びの記録も含めて、自分が「是非これは残しておきたい」と思うもの。

小学校1年生から中学校3年生までは、各学年で上記①～③の内容を含んだものを蓄積する。（A4版で両面使用可、1学年5枚以内）高等学校では、小・中学校までのキャリア・パスポートを参考に、①～③の他、各学校の特性に合わせた学びの記録を蓄積する。

※「キャリア・パスポート」の例（word版）を奈良県教育委員会ウェブサイト「奈良県先生応援サイト」に掲載（12月末までに掲載予定）

【どのように記録を蓄積するのか】

日常の授業等のワークシートや、家庭・地域社会での学びの記録等を蓄積していきます。学期末や学年末の学級活動・ホームルーム活動で、蓄積してきたワークシート等を振り返ってまとめたり、残す記録を選んだりします。それらの資料をキャリア・パスポートに入れて、次の学年や次の校種に引き継ぎます。

これまでも授業等を振り返る活動や各学期を振り返る活動は行われてきたと思います。キャリア・パスポートはそれらの貴重な記録の散逸を防ぎ、学年や校種を越えて引き継ぐものです。

